

研修会報告

「トランプイズムとは何であったのか? : What was Trumpism?」

3月19日(金)

講演: 沢村 亙 氏 (Wataru Sawamura)

朝日新聞 アメリカ総局長

American General Bureau Chief, The Asahi Shimbun

研修担当理事: 小暮 美怜

3月19日(金)、ワシントン日本商工会は朝日新聞アメリカ総局長の沢村亙氏をお招きして、ウェビナー“トランプイズムとは何であったのか? : What was Trumpism?”を開催し、70名以上の方にご参加いただきました。

沢村氏は東京大学文学部を卒業後、1986年に朝日新聞社に入社されました。ニューヨーク、ロンドン、パリで特派員として勤務後、2008年に国際報道部長に就任され、2011年から13年まではヨーロッパ総局長(ロンドン)として欧州報道・ロンドン五輪報道を現地統括されました。2013年9月から半年間、清華大学・新聞学院の訪問フェローとして中国にご滞在ののち、2017年7月より現職(アメリカ総局長)。現在朝日新聞のコラム「日曜に想う」などで、独自の鋭い視点からのアメリカ政治・社会の分析記事を執筆されています。2021年4月1日付でご帰国され、論説委員にご就任予定でいらっしゃいます。

当日の講演では、沢村氏の3年9ヶ月間のワシントンDC駐在のご経験を振り返りながら、トランプイズムとの出会い、トランプイズムを特徴づける要素、国民に受け入れられた構造的な要因、今後の行方などについてのお話をいただきました。反グローバリズム、反リベラリズム、ナショナリズム的なイデオロギーを強く打ち出しながら、忘れられた人々の代弁者として反エリート主義を掲げる姿勢が、米国の中でマイノリティー化する不安を抱える白人の心に響き、ここまで国民に受け入れられたのではというお話が印象的でした。

その後、時間内に全てご紹介できないほどたくさんの質問をいただきました。質問はトランプ政権を生み出したマスコミの責任、メディアの分極化、米中関係、日本の政治との比較、トランプイズムの継承者、フィリバスター制度など多岐に渡り、沢村氏から一つ一つに対

して丁寧な解説をいただきました。質疑応答を通して、参加者の皆様と心の通った深い議論ができたと感じています。

